

経済学部における履修について

(平成26年度夜間主コース編入学者用)

長崎大学の教育課程は、幅広い教養を身に付けるため長崎大学全体で行う**教養教育**と、各学部が行う**専門教育**に分かれています。夜間主コースの授業は、教養教育・専門教育ともに経済学部（片淵キャンパス）において開講されます。ただし、編入学生は、教養教育と自由科目の単位は修得済みとみなします。

なお、重要な履修上の注意点は**学生便覧**に掲載されています。また、各年度に開講する授業の詳しい内容は**シラバス**に掲載されています。原則として入学年次の学生便覧に記載されている規則が卒業まで適用されますので、入学時に配付された学生便覧やその他の資料を卒業まで大切に保管しておいてください。また、学生便覧の記載事項に変更が生じた場合は、学務係前ならびにNU-Web掲示板を通して通知しますので、毎日確認してください。

1. 履修体系

経済学部の専門教育の履修に関する事項は、学生便覧のP49～50に掲載されています。各自、目を通しておいてください。

2. その他の注意事項

- ★ 昼間コースに開設される専門教育科目（演習を除く）を履修し、30単位を限度として最低修得単位に含めることができます（経済学部規程第10条参照）。ただし、科目区分の取扱いについては学生便覧やシラバス、掲示による通知に十分注意してください。
- ★ 夜間主コースは1日に開講される科目数が2校時に制限されます。履修計画を立てるときには科目区分ごとの最低修得単位数に注意し、できるだけすべての校時に履修する授業科目を登録することを勧めます。
- ★ 「履修登録」は指定された期限までに、Nu-Webによって必ず行ってください。その際、画面上で登録内容に間違いがないか必ず確認してください。履修登録が正しく行われていなければ、授業や試験を受けても原則として単位は認定されません。
- ★ すべての授業科目が毎年開講されるわけではなく、隔年（1年おき）開講科目、数年に一度開講される科目があります。たとえば隔年開講科目の単位を修得できなければ、同一科目を履修するには1年以上待たなければなりません。
- ★ 授業科目の多くはその内容が基本的に昼間コースで開講されているものと同じです。試験および成績に関しても、夜間主コースであるという理由で特別の配慮がなされることは原則としてありません。一度欠席してしまうと続けて欠席してしまうことがあります。授業には必ず出席し、しっかりと講義ノートを作成し、また十分に予習・復習を行うよう努力することが大切です。
- ★ 教員に質問したい場合などは、授業時間中や授業終了直後、あるいはシラバスに記載された**オフィスアワー**を利用するか、各教員がシラバス等に指定する方法によって直接連絡をとってください。

- ★ 成績は、年2回、前期・後期の成績開示日以降にNU-Webで直接確認してください。
なお、前期、後期の成績確定後に、学生の保証人に成績通知を行います。また、単位修得状況が不振な学生に対しては前期・後期のはじめに履修指導を行い、これに参加しない学生は保証人に通知します。

- ★ 大学から学生に対する通知・連絡などは学務係前およびNU-Web上の**掲示板**を通じて行われます。必ず1日1度は掲示板を確認するよう心掛けてください。また、経済学部ホームページ（在学生の皆様へ）にも基本的な情報を掲載していますので、有効に利用してください。（<http://www.econ.nagasaki-u.ac.jp/>）

～卒業延期（留年）を防ぐために～

よくある留年パターン

パターン1：授業に出席しない、単位を修得できない。 →早いうちに登校しなくなる。

編入した学生は、2年間で多くの単位を修得しなければなりませんので、まずは、3年次に登録した科目全部の単位を修得するようにしてください。そのためには、継続的に講義に出席し、分からないことは先生に聞くなど積極的に講義に臨むことが必要です。

また、過度の、とくに深夜の時間帯の勤務やアルバイトを行うと、履修上困難をきたすことがあるので極力避けてください。

パターン2：卒業要件の間違い。

学生便覧に示されている卒業要件を間違えると、たとえ総修得単位数が充足されていても、卒業できません。各科目区分の卒業要件としての単位を修得しているかどうか、しっかりと確認してください。

パターン3：考査（試験やレポート）での不正行為

試験やレポートでの不正行為は、当該学期の授業科目の単位が与えられないほか、訓告、停学、退学等の処分が行われることがあります。

夜間主コースの履修体系および注意事項

平成26年度夜間主コース編入学生用

| | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | |
|---------------------------------|--------------------------------|------|-------|--|-------------|------|-------------|------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 授業科目区分** | | | | | | | | |
| 教養教育科目(32単位)*1 | 月から金 | 火から木 | 月、木、金 | 月、金 | | | | |
| 学部基礎科目(8単位)*2 | | 月、金 | 火、水 | | 火・水 | 月・金 | | |
| コース基礎科目(20単位)*3 | | 月、金 | | 月から金 | 月・火・水・金 | 月から金 | 月・火・水・金 | 月から金 |
| 応用科目(36単位)*4 | | | | | 月から金 | 月から金 | 月から金 | 月から金 |
| 演習(4単位) | | | | | 演習Ⅰ(月 or 金) | | 演習Ⅱ(月 or 金) | |
| 自由科目(教養教育科目・ 専門教育科目)(24単位)*5 | 教養教育科目・専門教育科目から自由に選択して履修する授業科目 | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | 演習Ⅰ(必修)・演習Ⅱ(選択)の履修(原則として同一の指導教員の下に履修する)*6 演習Ⅰの履修要件 ⇒ 教養教育科目修得単位26単位以上(外国語科目4単位以上を含む) ⇒ 専門教育科目修得単位14単位以上 演習Ⅱの着手要件 ⇒ 演習Ⅱを履修するためには演習Ⅰの単位を修得していなければならない | | | | |

** : かつこ内は最低修得単位数。なお昼間コースに開設されている学部モジュール科目及び専門教育科目(演習を除く)を30単位を限度として最低修得単位数に含めることができる(詳細は経済学部規程第10条を参照)。このうち夜間主コースの科目と同一名称の科目のみ、夜間主コースの当該科目区分の科目の単位として最低修得単位数に含めることができる。なお、編入学生は、既に自由科目(教養、専門)24単位が認定されており、夜間主コースの科目と同一名称ではない科目の単位を修得しても「自由科目(教養・専門)」の最低修得単位数には含めない。

*1 : 第3次編入学生は、既に履修したものと認定する。

*2 : 1科目4単位

*3 : 1科目4単位

*4 : 1科目2 or 4単位

*5 : 1科目2 or 4単位。なお、第3年次編入学生は、既に修得したものと認定する。

*6 : 演習Ⅱの単位認定は指定期間内に提出された卒業論文によって行う